

熊本高等専門学校 令和6年度計画の点検結果

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
1	<p>1.1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集パンフレットや広報誌、公式Webサイトなど確認して、本校の様子と本校6学科の特色が中学生およびその保護者、中学校教員に伝わるように工夫する。 ・公式Webサイトに学校の紹介や各種イベントの案内、活躍した学生の紹介等、公式Webサイトの情報の更新と充実を図る。2020年に公開したWebオープンキャンパスを積極的に活用し、本校の魅力を発信する。 ・本校で中学生およびその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会では、説明会の対象者を意識した効果的な説明を行う。 ・中学校が主催する上級学校説明会の参加依頼については原則としてすべて参加することとし、中学生、保護者、中学校教諭に対して、熊本高専の魅力を伝えられるよう説明内容の精査と資料の改善を行う。 ・中学生およびその保護者等を対象に実施されている合同説明会や中学校訪問については、費用対効果を鑑みて、効果的、効率的に志願者増に向けた取り組みができるよう実施内容を点検し、改善を行う。 	<p>1.1 教育に関する事項 (1) 入学者の確保 ①-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・募集パンフレットや広報誌を作成、中学校への送付、イベントでの配布をおこなうとともに公式Webサイトを通じた広報に取り組んだ。 ・公式Webサイトに掲載する情報は随時更新し、Webオープンキャンパスとともに本校の魅力を発信した。 ・オープンキャンパスや入試説明会、学校説明会のアンケート結果は概ね好評であった。 ・中学校主催の上級学校説明会は10/23時点で両キャンパス計26件参加した。説明内容や資料は関連情報を更新するとともに改善をおこなった。 ・合同説明会や中学校訪問は案内が届き次第、費用対効果の観点で検討をおこない、参加の可否を判断し、基本的には全ての説明会等に参加を行った。
2	<p>①-2</p> <p>中学生およびその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスや入試説明会、塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会を開催し、きめ細かなPR活動を継続する。</p> <p>中学校主催の上級学校説明会に参加し、中学生およびその保護者に高専の魅力を伝える。オープンキャンパスでは、学生会と連携した学生による個別相談や、保護者後援会の協力を得て保護者の相談ブースを可能な範囲で実施、中学生および保護者への情報提供を強化して、熊本高専の特性や魅力を発信する。</p> <p>また、寮務委員会や寮生会と連携した寮見学など、寮に関する情報提供も行っていく。</p> <p>中学校PTA単位での学校見学会は要望があれば対応することとし、高専機構主催の国公立立高等専門学校オンライン説明会に参加する。</p>	<p>①-2</p> <p>中学生およびその保護者等を対象に実施しているオープンキャンパスを8/3、8/4に実施した。塾講師や中学校教諭を対象にした学校説明会を10/8に開催した。入試説明会を、10/26、10/27に実施した。</p> <p>これまで2件(熊本C)、24件(八代C)、計26件の中学校主催の上級学校説明会に参加し、中学生およびその保護者に高専の魅力を伝えた。</p> <p>オープンキャンパスでは、学生会と連携した学生による個別相談や、保護者後援会の協力を得て保護者の相談ブースを実施し、中学生および保護者への情報提供を強化して、熊本高専の特性や魅力を発信した。</p> <p>また、寮務委員会や寮生会と連携した寮見学を実施し、寮に関する情報提供をおこなった。</p> <p>学校見学についてはこれまでに2件(熊本C)、1件(八代C)の要望があったため、いずれも学校見学を実施した。</p> <p>高専機構主催の国公立立高等専門学校オンライン説明会に参加し、京都在住の中学生に熊本高専についての説明と質疑応答を行った。</p>
3	<p>①-3</p> <p>「おもしろサイエンス・わくわく実験講座」や出前授業を通じて、小中学校のSTEAM教育支援を行うとともに本校の特性や魅力を発信する</p>	<p>①-3</p> <p>「おもしろサイエンスわくわく実験講座2024」は八代キャンパスで5/18に開催し、多くの来場者があった。</p> <p>小中学校のSTEAM教育支援は12月から2月にかけて実施した。</p>
4	<p>②-1</p> <p>女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、オープンキャンパスや学校説明会等において、女子学生による相談コーナーや説明コーナーを設ける。</p> <p>また、女子中学生の志願につながるよう本校の優秀な女子学生の活躍をアピールするために、従来の高専パンフレットや各種説明会資料、Webサイトをはじめ他の方法を用いた広報活動を検討し、実施する。</p>	<p>②-1</p> <p>女子中学生の志願者増に向けた取り組みとして、オープンキャンパスにおいて、女子学生による相談コーナーや説明コーナーを設け、説明を実施した。</p> <p>また、女子中学生の志願につながるよう本校の優秀な女子学生の活躍をアピールするため、高専パンフレットにおいて、女子の活躍や露出の割合を増加させ、中学校での学校説明会においても、女子の活躍を説明する時間を極力確保した。</p> <p>更に、令和5年度JST「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の共同実施校として、熊本大学において11/16に開催される理系のロールモデル講演会に熊本C2年生および八代C専攻科1年生の女子学生を推薦し、講演を行ってもらった。</p>

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
5	②-2 オンキャンパスの国際化に資する外国人留学生の確保に向けて以下の取り組みを行う。 ・JASSO等を活用して協定校からの外国人留学生を受け入れ、本校学生の海外活動の場を充実する。 ・ホームページの英語コンテンツの拡充や、協定校との定期的に連絡を通じて、本校や高専の魅力を伝えていく。 ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。 ・タイ高専からの3年次編入生への適切な指導を引き続き継続する。 ・外国人留学生の教育効果を高めるため、日本語教育をはじめとする支援を引き続き行う。	②-2 ・海外協定校からの協定留学(3-4ヶ月)を受け入れており、今年度は16名の外国人留学生を迎えた。本校学生が短期留学生と共に活動する機会を通じて、日本人学生が日本にいなから海外体験できる機会を提供している。 ・協定校とは定期的に情報交換を行っており、学生研修などの機会を利用して現地でも本校の魅力を伝えている。 ・協定校学生との受入型ワークショップを実施した。(海外学生:30名、本校学生30名が参加) ・タイ高専編入生および外国人学生への日本語教育を実施しており、図書館にも日本語学習教材などを配架した。
6	③-1 本校の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、本校のアドミッションポリシー(AP)を公開周知するとともに、入試等のデータ整理・分析を実施し、APIに基づいて実施される入学者選抜が適切か点検を行う。 また、受験生の利便性を向上させるための取り組みとして「最寄り地等受験」の他、本科、本科編入試験に続き専攻科入試でも「WEB出願」を導入し、WEB出願システムの導入後の運用状況を確認し、安定的運用並びに必要なシステムの改善を進める。	③-1 本校WEBの他、OC,学校説明会等で本校のAPを公開周知している。また、入試等のデータ整理・分析を実施し、APIに基づいて実施される入学者選抜が適切か8月の両キャンパス合同教員研修で点検を行った。専攻科でも「WEB出願」を導入し、「出願システム」の運用状況の確認・安定的運用に取り組んでいる。
7	③-2 障害がある受験生に対する配慮について、本校の対応事例をまとめる。	③-2 障害がある受験生に対して配慮しており、各事例についてまとめている。
8	(2)教育課程の編成等 ①-1-2 地域社会・地場企業と連携しながら、半導体・デジタル人材育成を継続するとともに、アントレプレナーシップ教育およびAT(Assistive Technology)分野等での社会実装教育をさらに進める。	(2)教育課程の編成等 ①-1-2 COMPASS5.0(半導体分野)、GEAR5.0でのAT、さらにアントレプレナーシップ教育において、「半導体材料・デバイスフォーラム」(9月)や「新・閃きイノベーション2024」(4月)の実施等、地域社会・地場企業と連携を行いながら社会実装教育を推進している。
9	①-2 第5ブロック専攻科と九州大学工学部の双方の強みを融合させ、教育資源を有効に活用し、教育内容の高度化を図ることを目的とした九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムを推進する。	①-2 本科4年生への連携教育プログラム説明会の実施(4月)、夏季インターンシップの周知(6月)、九大融合基礎工学科研究室訪問の周知(8月)および保護者への案内文書の送付(9月)、本科生への九大主催のオンライン説明会の周知(4月)、希望学生の九大筑紫キャンパスオープンキャンパスの引率(5月)を行い、九大工学部・九州沖縄9高専連携教育プログラムの推進を図った。その結果、今年度入試において本科5年生3名が合格、夏季インターンシップへも本科4年生3名が参加している。
10	②-1 ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	②-1 ・派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港,16名)や低学年台湾研修(台湾,30名)、シンガポール英語研修(シンガポール,17名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修を実施しており(熊本キャンパス:112名、八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学には2名(5年生約2ヶ月間,3年生約1ヶ月間)の研究プロジェクトに取り組んだ。 ・受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
11	②-2【再掲】(番号10) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	②-2 ・派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港,16名)や低学年台湾研修(台湾,30名),シンガポール英語研修(シンガポール,17名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修を実施しており(熊本キャンパス:112名,八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学には2名(5年生約2ヶ月間,3年生約1ヶ月間)の研究プロジェクトに取り組んだ。今後の派遣予定プログラムについても安全面に配慮しながら準備を進めている。 ・受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。【再掲】
12	③-1 高専体育大会およびロボコン、プロコン、デザコン、英語プレコン等に参加する本校の学生が大会で活躍できるように、予算面と環境面の両方において可能な限りの支援をおこなう。	③-1 予算面では、学生研究教育支援金、校長裁量経費、保護者後援会・奨学後援会の補助により支援を行っている。環境面においては、教職員のサポートとともに、外部コーチによる指導も実施しており、また、申請による活動時間の延長による活動支援も行っている。
13	③-2 学生にボランティアへの参加を積極的に呼びかけ、一定時間参加した学生にはボランティア単位を発行する等のインセンティブを与えることで、学生にボランティア活動への参加を推奨する。	③-2 全学生に、本校主催の科学イベントをはじめ、各種イベントの案内を行い、ボランティア活動への参加を奨励している。今年度熊本キャンパスでは38名、八代キャンパスでは14名、計52名の学生が単位申請、取得した。
14	③-3 ・本校の留学経験者の報告会及び留学説明会を開催し、留学の魅力を学生に伝える。その他、留学促進講演会として、外部講師及び卒業生による講演会を両キャンパスで実施する。留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供していく。 【再掲】(番号10) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	③-3 ・海外渡航した学生については、報告書やアンケートなどを実施しており、留学や海外渡航経験による効果の把握を進めている。また、渡航経験者には留学報告会での報告実施した。 ・留学に関する奨学金情報は、随時学生に提供した。 ・派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港,16名)や低学年台湾研修(台湾,30名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修で(熊本キャンパス:112名,八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学にも2名(5年生約2ヶ月間,3年生約1ヶ月間)が研究プロジェクトに取り組んだほか、個別の語学留学希望者へも安全指導を含め準備指導を適切に行った。 ・受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。【再掲】
15	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者とするを原則とする。	(3)多様かつ優れた教員の確保 ① 今年度実施している公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者として記載している。
16	②-1 企業や大学等とのクロスアポイントメント制度活用を進める。	②-1 クロスアポイントメント制度を活用して、本校教員が他機関(大学)へ招聘される事例や、外部から本校へ迎える採用を既に実施している。
17	②-2 民間で活躍するOB・OGの協力を得て、教育内容の高度化を推進する。	②-2 アントレプレナーシップに関する講演会等でOB・OGに講師を依頼して実施。

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
18	③ 柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組について、教職員に周知するとともに相談体制を整え、働きやすい環境整備を推進する。	③ 勤務時間制度に関しては、1年単位の変形労働時間制を導入し、日単位では、時間の繰上げ・繰り下げ等で柔軟に対応した。 また、同居支援プログラムにおいても周知した。
19	④ 一般科目および専門科目（「技術英語」等）において、外国人教員登用を進める。	④ 一般科目（英語・独語・中国語・韓国語）および専門科目（技術英語）等において、外国人教員の登用を行っている。
20	⑤ 国立高等専門学校間の教員人事交流制度活用を検討する。	⑤ 他高専から本校への異動希望について対象学科を中心に検討した。1件は現状に鑑みて実現に至らなかったが、もう1件（同居プログラム）は、次年度よりの受け入れを決定した。
21	⑥ 教育、学生支援、研究等の教員に求められる資質・能力を向上するためにFD活動を実施する。	⑥ FD推進室が中心となり、教育改善グループでの活動や授業アンケート（前期・後期）等を実施している。
22	⑦ 教育活動や生活指導などにおいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。	⑦ 顕著な功績が認められる教員を3月教員会において表彰を行った。
23	(4)教育の質の向上及び改善 ① アセスメントポリシーに基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検証等、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善に取り組む。 ② 熊本高専ファーストペンギンズプロジェクト、COMPASS5.0、GEAR5.0、COOP教育、MDASH教育など継続して取り組む。 ③ 高度情報専門人材育成を目的として、産業界や行政と連携し、社会ニーズに対応したカリキュラムの検討を進め、特色ある教育の強化を図る。 ④ 学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進する。	(4)教育の質の向上及び改善 ① アセスメントポリシーに基づき、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの検証等、教学マネジメントの実践を推進し、PDCAサイクルにより教育の改善に取り組んだ。 ② 熊本高専ファーストペンギンズプロジェクト、COMPASS5.0、GEAR5.0、COOP教育、MDASH教育など継続して取り組んだ。 ③ 高度情報専門人材育成を目的として、産業界や行政と連携し、社会ニーズに対応したカリキュラムの検討を進め、特色ある教育の強化に取り組んでいる。 ④ 学生の主体的な学びの促進等を図るため、国立高等専門学校間の教材の共有や、授業科目の履修・単位の互換認定を推進している。
24	② 教育の質保証及び向上に努めるため、令和5年度に受審した高等専門学校機関別認証評価において、改善を要する点について改善を進める。	② 機関別認証評価において、改善を要する点として指摘のあった事について関係委員会において改善を進めている。
25	③-1 ・リベラルアーツ系科目を活用し、令和5年度に引き続き、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLを推進・強化する。 ・地域企業との長期インターンシップや、「新・閃きイノベーション」などを通して、地域企業等が直面する課題解決を目指したPBLを行う。 ・令和5年度に引き続き、地域の自治体等と連携して、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施する。	③-1 ・リベラルアーツ系科目を活用し、地域企業、行政機関、外部エンジニア等と連携したPBLの推進・強化に取り組んだ。 ・地域企業との長期インターンシップや、「新・閃きイノベーション」などを通して、地域企業等が直面する課題解決を目指したPBLに取り組んだ。 ・令和5年度に引き続き、地域の自治体等と連携して、小中学生等を対象とした情報プログラミング教育を含むSTEAM教育の支援を実施した。
26	③-2 ・地域企業への長期インターンシップや、地域企業等との協働教育の成果を、「熊本高専研究教育地域連携フェア」などを通して紹介する。	③-2 地域企業への長期インターンシップや、地域企業等との協働教育に取り組んでおり、成果発表をおこなった。一部は4月の新・閃きイノベーション2025で発表予定である。

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
27	④ 技術科学大学との間の連携教育、共同研究、人事交流などの分野での連携を検討する。	④ 技術科学大学からの学習コンテンツ受講や科研費講習会の案内を学内展開し、活用している。
28	(5) 学生支援・生活支援等 ① 本校に配置されているカウンセラーおよびソーシャルワーカー等との連携を密にしつつ、担任との懇談や教職員対象の研修を実施し、実効性のある研修等を行う。	(5) 学生支援・生活支援等 ① 対面やオンライン(teamsなど)で全教職員とSC、SSWが密に連絡を取れる体制を整えており、いじめ対策委員会で定期的な情報の共有や意見交換を実施している。必要に応じて担任との懇談も行っている。教職員の研修については、2月14日(金)に、本校の赤星スクールソーシャルワーカーを講師に迎え、いじめ防止に関する講演会を実施した。
29	② 各種奨学金制度に係る情報が学生・保護者に適切に行き渡るよう、文書、ホームページ、Teams、eメッセージを活用し、積極的に情報提供を行う。	② ホームページに奨学金等の各種経済支援制度に関するページを作成し、募集に関する情報を掲載している。学生にはTeams、メールにより、保護者へはeメッセージにより募集開始の周知を行っている。また、前期未成績を保護者宛に送付する際に各種経済支援制度の案内チラシを同封し、ホームページ掲載の情報を確認するよう案内している。
30	③ (熊本)4年生では「キャリアデザイン」(1単位)を実施する。インターンシップを通じて、就職活動に向けた準備をおこなう。キャリアセミナー(企業の合同説明会)を12月に実施する。2,3年生なども参加する。低学年からのキャリア教育を講演会などを通じて実施する。(八代)4年生では進路セミナー(1単位)を実施する。また、インターンシップを通じて、就職活動に向けた準備を行う。キャリア研修会(企業合同説明会)を例年通り12月に実施する。研修旅行を行う学年を段階的に引き下げ、2年生で行うことで、早い時期から就職に向けての意識づけを行う。各学年のホームルームで工場見学やOB説明会を実施する。	③ (熊本)4年生の後期で「キャリアデザイン」(1単位)を実施中である。夏季インターンシップが実施され例年通り約7割の参加があった。キャリアセミナーの12月実施に向けて準備中である。低学年からのキャリア教育としての講演会を2月初旬に開催予定で準備を進めている。(八代)4年生では進路セミナー(1単位)を実施した。また、インターンシップを通じて、就職活動に向けた準備を行った。キャリア研修会(企業合同説明会)を例年通り12月に実施した。他にも2年生での工場見学やアントレプレナーシップ講演会を実施した。
31	1.2 社会連携に関する事項 ① 研究シーズ集(4年に一度更新)の作成や「国立高専研究情報ポータル」、「リサーチマップ」等の年度更新による情報の充実、高専機構本部と連携したプレスリリースの活用により、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。	1.2 社会連携に関する事項 ① 研究シーズ集(4年に一度更新)を2024年6月に作成し、HPにて公開した。また、企画運営会議および教員会において2024年度からの教員評価申告表の教員作成負担軽減を柱とした、「リサーチマップ」等から紐づけによる事務作業軽減体制を整えている。広報戦略室と、高専機構本部と連携したプレスリリースの活用により、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などのPRTimesへの投稿が活性化している。
32	② 国立高専リサーチ・アドミニストレータ(KRA)や地域協働プロジェクトセンター、国立高等専門学校間の研究ネットワーク、GEAR5.0/COMPASS5.0等を活用し、地方自治体や地域連携振興会企業との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進する。また、KRAによる工学技術分野の展示会への出展活動や効果的技術マッチングのイベント等を通じて、知的財産を活用した社会実装などアントレプレナーシップ教育の社会還元を進める。	② 地域連携振興会会員企業は、110法人(2024.12.10時点)である。地方自治体や地域連携振興会企業との連携で、人材還元WGを立ち上げ、OB/OGのUターン希望者に対する支援の検討を10月より開始した。また、半導体人材育成を踏まえて寄付講座や「第15回半導体材料・デバイスフォーラム」の開催等、地域協働プロジェクトセンター、産学官連携コーディネーターを介して新たな共同研究・受託研究の受入れなどを促進している。また、STEAM教育の推進に基づき、地域企業と連携した社会実装などアントレプレナーシップ教育を推進した。学生活動発表会「KNIT Student Project Showcase 2024 (KNIT-SPS2024)」を実施した。
33	③-1 高専の教育や研究活動に対して、学校のホームページや報道機関等と連携した情報発信に積極的に取り組む。	③-1 高専ハカセ塾、出前授業、半導体フォーラムの開催や地域との連携活動、学生活動発表会「KNIT Student Project Showcase 2024 (KNIT-SPS2024)」等、熊本高専が主催している教育や研究活動に対して、学校のホームページや地元新聞などで公開した。

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
34	③-2 地方自治体や教育機関と連携し、地域連携の取組や学生活動等の様々な情報をホームページや報道機関への情報提供等を通じて、社会に発信するとともに、報道内容及び報道状況を機構本部に随時報告する。	③-2 GEAR5.0に関して、熊本県教育委員会と連携し、小中高、特別支援学校のプログラミング教育に携わる情報処理担当の教員研修を8月に実施した。また、その一部は日本マイクロソフト株式会社を会場として、Japan-ATフォーラム(文科省後援、高専機構主催)にて10月に開催した。学校のホームページ、プレスリリース等で公開した。
35	④ 教育委員会や公民館等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育支援の取組み等を通じ、地域の理工系人材の早期発掘及び人材育成支援を推進する。	④ 連携理科授業(中学校、小学校)を例年通り計画し、実施できた(中学9校486名、小学3校193名)。また熊本高専ハカセ塾を計画し、実施した(14回、累計55名)。STEAM連携授業も例年通り計画し年度内に実施した(1校115名)。また、その他の出前授業についても可能な限り実施した(依頼6件、イベント出展4件)。
36	1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 国際交流等に関する事項 1-1 タイ高専、タイテクニカルカレッジにおけるプレミアムコース、マレーシア技術者研修等の協力など、相手国と連携・協議し今後の交流についての検討を継続していく。	1.3 国際交流等に関する事項 ①-1 ・昨年に続き、タイ高専からの編入学生を受け入れており、学生指導を行い協力している。 ・JICA協力としてマレーシアADTEC Melakaからの教員研修を受け入れて技術や高専型教育についての情報共有を実施し、高評価であった。
37	①-2 該当なし	①-2 該当なし
38	①-3 KOSEN-KMITL及びKOSEN KMUTTへの教員派遣に加え、教員研修、教育課程等の点で支援・連携を継続する。	①-3 一般教育担当の教員がタイ高専に派遣中である。
39	①-4 該当なし	①-4 該当なし
40	①-5 該当なし	①-5 1月24日にエジプトからの視察団に対して、高専における教育研究活動、寮システム、学務運営システムなどについて説明を行った。
41	①-6 マレーシアの教育機関との教員・スタッフ研修における支援の継続について検討する。	①-6 マレーシアの教育機関との教員・スタッフ研修を実施した。(9月)
42	①-7 該当なし	①-7 該当なし
43	② 「KOSEN」の導入支援に係る取組は機構本部への協力事項として、タイ高専等の交流・支援実績のある教育機関との連携を本校の国際化の機会として継続する。	② 国際参事として併任されている本校教員並びにグローバルリーダーシップ育成センターが中心となり、タイ高専等との交流・支援において機構本部への協力を行っている。
44	③-1【再掲】(番号10) ・海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 ・海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。	③-1【再掲】(番号10) ・派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港、16名)や低学年台湾研修(台湾、30名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修を実施しており(熊本キャンパス:112名、八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学には2名(5年生約2ヶ月間、3年生約1ヶ月間)の研究プロジェクトに取り組んだ。今後の派遣予定プログラムについても安全面に配慮しながら準備を進めている。 ・受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。【再掲】

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
45	<p>③-2【再掲】(番号10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。 	<p>③-2【再掲】(番号10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港,16名)や低学年台湾研修(台湾,30名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修を実施しており(熊本キャンパス:112名,八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学には2名(5年生約2ヶ月間,3年生約1ヶ月間)の研究プロジェクトに取り組んだ。今後の派遣予定プログラムについても安全面に配慮しながら準備を進めている。 受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。【再掲】
46	<p>③-3</p> <p>「トビタテ!留学JAPAN」等の情報収集を行い、学生の積極的な活用を促す。</p> <p>【再掲】(番号10)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外渡航の安全状況に注視しつつ、安全に海外留学や海外研修ができるよう、また、将来の活動に向けて、海外企業や交流協定校を中心とした教育機関と連絡を取り合い、協定校への交換留学や研修や海外インターンシップの準備を進めていく。 海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。 	<p>③-3</p> <ul style="list-style-type: none"> トビタテ!等の海外派遣奨学金制度等の情報提供や留学情報を学内説明会等で学生に情報提供し、高校生コース,大学生コースとも学生の応募の支援を行った。 派遣については、夏季休業期間中にIDEATHON2024(香港,16名)や低学年台湾研修(台湾,30名),シンガポール英語研修(シンガポール,17名)などを協定校と協力して現地で実施した。また各学科においても海外研修を実施しており(熊本キャンパス:112名,八代キャンパス:82名)がシンガポールやベトナムへ渡航した。渡航に当たっては安全な実施ができるよう、協定校や訪問先と綿密な打ち合わせを実施して準備を整えた。協定校への交換留学には2名(5年生約2ヶ月間,3年生約1ヶ月間)の研究プロジェクトに取り組んだ。 受け入れについても、協定校からの学生グループ(30名)との学内交流会の実施や、3-4ヶ月程度の交換留学生を行い、オンキャンパスでの国際的視野の成長の機会とした。【再掲】
47	<p>④【再掲】(番号5)</p> <p>オンキャンパスの国際化に資する外国人留学生の確保に向けて以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> JASSO等を活用して協定校からの外国人留学生を受け入れ、本校学生の海外活動の場を充実する。 ホームページの英語コンテンツの拡充や、協定校との定期的な連絡を通じて、本校や高専の魅力を伝えていく。 海外協定校と協議しながら、対面型国際ワークショップやオンラインでの学生交流を計画実施する。 タイ高専からの3年次編入生への適切な指導を引き続き継続する。 外国人留学生の教育効果を高めるため、日本語教育をはじめとする支援を引き続き行う。 	<p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度は協定校から計16名の学生を受け入れている。うち11名はJASSO協定受入プログラムを活用した。 次年度に向けてJASSO協定受け入れプログラムへの申請を行なった。 協定校との対面型プログラムとして、派遣および受入ともに国際ワークショップを実施した。 タイ高専からの3年次編入生への指導を丁寧に行っており、第5ブロックの留学生支援活動等も活用して日本語教育や文化理解にも努めている。
48	<p>⑤</p> <p>外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の把握や適切な指導等に取り組む。</p>	<p>⑤</p> <p>外国人留学生については、学科教員や担任が主として試験後に学業成績等を共有して肌理の細かい指導に活かしている。</p>
	2. 業務運営の効率化に関する事項	2. 業務運営の効率化に関する事項
49	<p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>必要な業務の優先順位を考慮し、一般管理費の効率的な運用を行う。</p>	<p>2.1 一般管理費等の効率化</p> <p>年度当初の予算措置の段階で、必要な業務の優先順位を十分考慮し、委員会等のヒアリングを行い、一般管理費の効率的な運用に努めている。</p>

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
50	2.2 給与水準の適正化 職員の給与水準について、適正化に取り組む。	2.2 給与水準の適正化 職員の給与水準について、適正に取り組んでいる。
51	2.3 契約の適正化 契約にあたっては、他高専で実施された監事監査の指摘事項等を踏まえ、随意契約の適正化を推進するとともに、一般競争契約への見直しを推進する。 さらに、引き続き機構通知等に基づき学内(内部)監査等を実施する。 また、両キャンパスにおける調達等の合理化、効率化についても引き続き検討し、可能なものから着実に実施する。	2.3 契約の適正化 随意契約の適正性の確保として、競争性のない随意契約については、全て機構本部への確認を経て行っている。 なお、高専相互会計内部監査を12月16日(秋田→熊本)に実施し、また、本校では公的研究費にかかる学内監査を1月29日、31日に実施し、予算管理状況、人件費、旅費、物件費にかかる契約の適正性等を確認した。 また、両キャンパスにおける調達等の合理化、効率化について検討し、これまで各キャンパスで契約をしていた「ジェネリックスキル測定テスト実施業務」については、両キャンパス分を一括して契約した。また、エレベーターの保全業務について、両キャンパス分を熊本キャンパスにおいて一括して入札・契約した。
52	2.4 情報通信技術を活用した業務の効率化 デジタル・トランスフォーメーションを活用し、教育や事務等各種業務の効率化を推進する。	2.4 情報通信技術を活用した業務の効率化 Microsoft365の使い方について教職員対象の研修会を行った6/6総務省策定の機械判読可能なデータ表記方法の統一ルールを教職員に周知した6/12。SD研修を実施した。合わせて生成AIについても解説した11/28,12/5。 PDF編集ソフトの共同調達を計画したが、想定したソフトウェアの使用許諾が現実的でないことが判明したため、各自による対応とした。
	5.財務内容の改善に関する事項	
53	3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 ・機構本部令和6年度計画及び機構本部予算編成方針を受け、年度当初に本校の予算編成方針を策定し、一般管理費、その他の業務の効率化を図る。 また、一般管理費の削減を図るため、学内委員会等と連携して光熱費、通信費等の削減の取り組みを実施する。 ・通常業務における業務の見直しを図り、事務効率化を推進する。	3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3.1 (戦略的な予算執行・適切な予算管理) 4月の企画運営会議において、本校の予算編成方針を決定し、各委員会等からの「予算要求書」に基づき、必要に応じて個別ヒアリングを実施のうえ、戦略的な予算配分を6月に行った。 今年度の当初予算配分にあたっては、光熱費の高騰及び物価高の影響を踏まえ、昨年度に引き続き、各委員会等の要求額については原則15%の削減を講じ、「研究基盤費」についても、「教員評価(職務申告表)」の「研究実績」に応じ、原則15%削減を講じたが、それに加えて、今年度は5%の節約留保額を控除した予算配分を行った。 予算配分後は、電気料変動の動向等に注視しつつ、各業務について適正な執行管理のため、10月末及び2月当初に予算残額返還等照会を行い、返戻された予算残額を機動的に対処すべき事項に再配分するなど適正な予算管理に努め、キャンパス毎に効率的・効果的な執行を図った。 また、電気料については、今年度、両キャンパス分を一括して入札・契約を実施したことにより、令和7年度においては、前年度契約相手方における令和7年度支出予定額と比較して大幅な削減が見込まれる。 (業務効率化の推進・管理課) RPAの導入等により支払業務を自動化し効率化を図ったことにより、超勤時間は昨年度比12%減となった。 (業務効率化の推進・学生課) 授業アンケートの作成、結果の集計結果等を技術職員の協力を得て、Power Automateを用いて自動化を行い、これに割く時間トータル20時間減少させ、事務効率化を図ることができた。
54	3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 研究・社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金、寄附金獲得の増加を図る。また、熊本高専地域連携振興会会員企業等との交流を図る。	3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 令和7年3月31日に開催された、令和6年度第12回研究推進委員会で、令和7年度科研費申請率50%(昨年度並み)、令和7年3月時点での採択率10%(昨年度並み)を確認し、外部資金獲得状況が例年通り堅調であったことを確認した。また、熊本高専地域連携振興会法人会員数が令和6年度114法人であったこと、研究開発推進事業に3件選定、令和7年2月27日に、地域連携振興会会員企業と本校の学生を結ぶ場として、「KNIT-SPS2024」を開催し、他高専を含め約90テーマの発表があり、学内外から約550人の参加があったことを確認した。
	7.その他主務省令で定める業務運営に関する事項	7.その他主務省令で定める業務運営に関する事項

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
55	② 例年実施しているAED講習、防災訓練(学寮を含む)等を実施する。	② 教職員・学生対象のAED講習(6月)、防災訓練(5月:熊本キャンパス、11月:八代キャンパス)を実施済みである。また、技術・教育支援センターにより毎年度実験・実習安全マニュアルを作成し、実験・実習担当教員を介して学生に配布している。 学寮では前期と後期の部屋替えの機会に避難経路の確認その他を目的とした避難訓練を実施している。(八代キャンパス)
56	③ 中学生や保護者へは学校説明会・オープンキャンパス等を通じ、学校の魅力を伝える。在校生に対しては、令和5年度に整備したアントレプレナーシップ教育に係る設備を活用して様々な取組を計画実施する。	③ 中学生や保護者対象のオープンキャンパス(8月)および中学校・塾対象の学校説明会(10月)等を実施済みである。
57	7.2 人事に関する計画 (1)方針 ① 課外活動では外部コーチの登用、学寮では外部人材の活用を進める。	7.2 人事に関する計画 (1)方針 ① 課外活動において、外部コーチの登用を希望するクラブにおいて予算措置を行っている。 学寮では登校後の寮内巡視員や女子寮寮母などで外部人材を登用している。
58	④-1 専門科目担当教員の公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者とするを原則とする。	④-1 今年度実施している公募において、応募資格の一つとして、博士の学位を有する者として記載している。
59	④-2 企業や大学等とのクロスアポイントメント制度活用を進める。	④-2 クロスアポイントメント制度を活用して、本校教員が他機関(大学)へ招聘される事例や、外部から本校へ迎える採用を既に実施している。【再掲】
60	④-3 柔軟な勤務時間制度や同居支援プログラム等の取組について、教職員に周知するとともに相談体制を整え、働きやすい環境整備を推進する。	④-3 勤務時間制度に関しては、1年単位の变形労働時間制を導入し、日単位では、時間の繰上げ・繰り下げ等で柔軟に対応した。 また、同居支援プログラムにおいても周知した。
61	④-4 一般科目および専門科目において、外国人教員登用を進める。	④-4 一般科目(英語・独語・中国語・韓国語)および専門科目(技術英語)等において、外国人教員の登用を行っている。
62	④-5 男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発のための研修会等の実施を検討する。	④-5 男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を目的とした研修会等の実施は未だであるが、他機関での研修等の案内を恒常的に実施している。
63	⑤ 機構の計画する多様な人事交流の取組を、個人の事情にも配慮しつつ活用を進める。	⑤ 他高専から本校への異動希望について対象学科を中心に検討した。現状に鑑みて実現には至らなかったが、人事交流について認識を深めることには繋がった。また、他高専からの同居プログラムの申請(来年度4月より)については、面接も行った結果、受け入れることになった。
64	(2)人員に関する指標 各種研修等への参加を促し、長期的には若年のうちに総務・財務・学生のすべての系を経験できるように配属し、職務能力の向上を目指す。また、Microsoft Teams、Forms、PowerAutomate等を活用し、業務の効率化を図る。	(2)人員に関する指標 学内外で開催される各種研修に多くの教職員が参加した。若手職員においては、総務・財務・学生という系を超えての人事異動も実施され、職務能力の向上につながる事が期待される。また、業務効率化のためのMicrosoft Teams、Forms等の具体的な活用方法に係るSDを実施し、業務の効率化を図った。

番号	熊本高専令和6年度 年度計画	令和6年度計画実績
65	<p>7.3 情報セキュリティについて</p> <p>① 高専全体で利用する情報システムの最適化に伴う仕様変更や操作方法の変更に対応する。</p> <p>本校独自に設置して運用している情報システムについて適宜点検と見直しを行う。</p>	<p>7.3 情報セキュリティについて</p> <p>① 独自に利用している個人情報取り扱いシステムを調査し、ガイドラインを用意した6/14。 「すぐやる三箇条」の更新5/9。 電子メールセキュリティポリシーの強化を実施8/30。 ファイアウォールポリシーの棚卸を実施した9/17。 Outlookアプリ用誤送信防止システムの更新9/26。 機構Microsoft365の容量変更について対応した9/30。 機構主催の「IT人材育成研修」に参加し、次期統一ネットワーク調達の仕様変更に向けた準備を行った(1/20-21, 1/30-31)。</p>
66	<p>② 情報セキュリティに関する各研修に対して積極的に参加する。</p>	<p>② K-SECによる月1回のNECセキュリティエンジニアとの情報交換会に参加している。 高専フォーラムの情報担当者セッションに参加した。 情報戦略連絡会に参加している。 SINETの研修NIIサービス説明会2024に参加した12/19。 機構主催のIT人材育成研修に参加した1/20-21, 1/30-31。</p>
67	<p>③ CISO及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門からの連絡に従い、情報セキュリティ対策を実施する。</p>	<p>③ 関連する手順等を定め、教職員にも公開した9/17。 情報セキュリティ監査の受審(9/18-20)。指摘事項に対応した。</p>
68	<p>④ 情報セキュリティに関する各研修や訓練に対して積極的に参加する。</p>	<p>④ 情報セキュリティトップセミナー(8/7)に参加した。 機構によるR6度セキュリティインシデント対応訓練に参加した。</p>
69	<p>⑤ CISO及び情報戦略推進本部情報セキュリティ部門からの連絡に従い、情報セキュリティ対策を実施する。</p>	<p>⑤ 迷惑メール対策を強化した。 情報セキュリティe-Learningを10月末までに教職員が受講した。 AXIOLEのファームウェアアップデートを行った(2024/12) ac.jpドメイン流出についての連絡を受け、該当可能性のあるユーザを洗い出し、照会・注意喚起を行った(2025/2/6)。</p>
70	<p>⑥ 情報セキュリティインシデント予防及び被害拡大を防ぐための啓発、教職員・学生に対して随時情報提供や注意喚起を行う。</p>	<p>⑥ 「すぐやる三箇条」の更新5/9。 NISCサイバーセキュリティ(2023報告, 2024計画)を教職員に通知8/20。 Windows10サポート終了について周知9/27。 Microsoft/Apple製品の利用期間について注意喚起済み8/9, 10/11。 情報セキュリティに関する手順書等について周知9/27 メール誤送信防止について周知1/18 メールアカウント情報の流出について注意喚起1/27 テレワークに伴う業務ネットワーク内における個人所有端末使用に関する注意喚起2/10 委託判断基準の制定について周知2/10</p>